

総説

## 【総説】

### 県政治革

- 明治元年 1月21日 大和鎮台が設置され、のち2月1日大和国鎮撫総督府と改称した。
- 同 年 5月 高取藩預り所、奈良奉行所および13ヶ所の代官所、旗本、宮堂上、神社、寺院社家の管理領等を奉還、これにより17日奈良県を設置。知事春日仲裏。
- 同 年 7月29日 奈良県は奈良府と改称した。
- 同 2年 7月17日 各藩は版籍を奉還し、それぞれ旧藩を県とし知藩事を置く。(郡山県—柳沢氏15.1万石、高取県—植村氏2.5万石、柳本県—芝村県—織田氏1万石、橿羅県—永井氏1万石、小泉県—片桐氏1.1万石、柳生県—柳生氏1万石、田原本県—平野氏1万石の八県)
- 同 3年 2月27日 奈良県の一部を分け五條県を置く
- 同 4年 11月22日 奈良、五條を含む15県を廃し、奈良県を設置、県内を添上、添下、平群、山辺、式上、式下、十市、宇陀、高市、広瀬、葛下、葛上、忍海、宇智、吉野の15郡に分ち統轄した。(県令四条隆平) このとき本県の戸数は95,866戸、人口

418,326人となっている。

- 同 9年 4月18日 堺県と合併される。
- 同 14年 2月7日 堺県が大阪府に編入される。15郡を4郡役所で所管、このとき183町1,306村である。
- 同 20年 11月4日 大阪府から分離して奈良県が設置された。このとき15郡261町1,333村からなり、99,005戸、476,709人である。
- 同 年 12月1日 奈良県開庁。(知事税所篤)
- 28日 第1回奈良県議会議員35名の当選告示。
- 同 21年 1月9日 第1回奈良県会が東大寺大仏殿廻廊において開かれた。
- 同 22年 4月1日 町村制が施行された。10町 152村(組合村を含む)
- 同 28年 12月15日 県庁舎新築落成
- 同 30年 4月1日 郡制実施され、添下、平群を合せて生駒郡、式上、式下、十市を合せて磯城郡、広瀬、葛下を合せて北葛城郡、葛上、忍海を合せて南葛城郡とし、以上添上、山辺、宇陀、高市、宇智、吉野の各郡を合せて10郡となり、各郡に郡役所が置かれた。

同 31年2月1日 添上郡奈良町に市制がしかれ奈良市となる。

大正12年4月1日 郡制廃止

同 15年7月1日 郡役所廃止

昭和17年7月1日 県内7ヶ所に地方事務所設置。

同 22年4月15日 初の公選知事選挙が行われた。

同 30年9月17日 地方事務所廃止

同 40年3月18日 新県庁舎竣工

(総合計画)

同 28年10月 奈良県総合開発計画及び吉野熊野特定地域総合開発計画発足。

同 39年3月 県新総合開発計画策定。

同 43年3月 第二次新総合開発計画策定。

同 48年3月 長期基本計画(第三次)を策定。

同 53年3月 長期基本計画(第三次){修正計画}を策定

同 59年4月 奈良県長期基本構想を策定

### 位置・面積

近畿の屋根といわれる山岳地帯を南部に持つわが奈良県は、わが国のほぼ中央部、紀伊半島の真中に位置し、周囲を山岳に囲まれた内陸県である。

本県の面積は3,692.15km<sup>2</sup>で全国の府県中埼玉県よりやや小さく第40番目にあたる。

また、全国面積の約1%である。

本県の市町村は9市8郡(20町18村)で市部面積

698.75km<sup>2</sup>、郡部面積2,993.40km<sup>2</sup>で県全体のそれぞれ、18.9%、81.1%にあたる。

この内、吉野郡が最も大きく2,257.67km<sup>2</sup>で全体の61.1%を占めている。

ついで宇陀郡(10.1%)、奈良市(5.7%)、山辺郡(3.0%)の順となっている。

また市町村中最大の面積をもつのは吉野郡の十津川村で669.77km<sup>2</sup>で県総面積の18.1%に当たり、全国的にもめずらしい巨村である。

また最小は生駒郡安堵村の4.88km<sup>2</sup>である。

東端 東経136度12分 宇陀郡御杖村大字神末

西端 東経132度33分 吉野郡野迫川村大字弓手原

南端 北緯33度52分 吉野郡十津川村大字竹筒

北端 北緯34度47分 生駒市高山

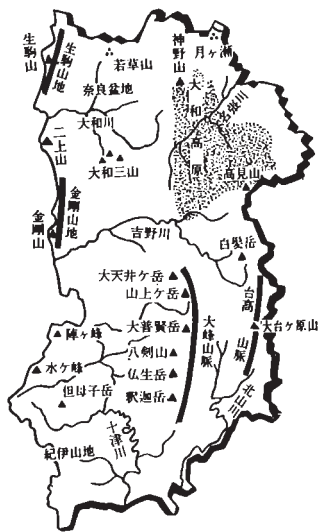
東西の距離 64.13km

南北の距離 102.22km

### 地 形

本県の地形は県のほぼ中央を西流する吉野川を境として北部の低地帯と南部の山岳地帯に分かれる。いわゆる地理学上の中央構造線は吉野川にほぼ沿って通っており北部低地帯は内帯に、南部山岳地帯は外帯にそれぞれ属して、非常に対象的な地貌を示している。

北部低地帯……複雑な丘陵と小盆地からなり、大別すれば大和高原、宇陀山地、および奈良盆地からなる



吉野郡を除くほとんどの市町村はこの北部低帯に属している。

大和高原は奈良盆地と伊賀盆地に挟まれた高原で、北は木津川、南は初瀬川、宇陀川によってくぎられている。ほぼ400～500mの標高を持ち、なだらかな小丘陵が起伏、河川は少ない。添上、山辺郡の各村があり、

古代はツゲの国と呼ばれ、その開化は古く、縄文時代早期に属する土器も発見されている。こうした山地のため道路の発達が遅れていたが、昭和44年3月、高原を東西に貫ぬいて名古屋—大阪を結ぶ名阪国道が全面開通し、地理的に閉鎖的であったこの地域の開発が脚光をあびている。

宇陀山地、宇陀盆地、高見山地、室生火山群および竜門山地（独立地形区とも考えられる）からなる複雑な地形区は、大和高原の南方に位置し東部は鈴鹿・布引山脈に接し、西は竜門山地を経て金剛山脈に、南は吉野川の中央構造線におよぶ。

まず宇陀盆地は標高300～400m、小丘陵が点在し、榛原、松山、古市場等の小盆地に分かれている。高見山地は標高1,000m級の山塊が入り組んだ山岳地形である。室生火山群は高見山地の北から西は大和高原、東は布引山脈に接する火山噴出による地形で、東西25km、南北15kmに及び、宇陀郡曾爾村の屏風岩、兜岩、古火山など山容に秀れ、また断層により生じた柱状節理が100m近い大絶壁をなすなど奇勝に恵まれた地域である。名高い香落溪の景勝地はこの一部である。

竜門山地は南を中央構造線に接し、主峰竜門岳をはじめ、熊ヶ岳、多武峯御破烈山、高取山など600～1,000mの山なみが奈良盆地にのぞみ、西に次第に低

く金剛山東側で尽きている。

奈良盆地……県の北西部を占めるこの盆地は、面積約300km<sup>2</sup>で、盆地底の標高が40m～80mの肥沃な沖積層盆地である。

盆地面積は県全体の約8%にすぎないが、この平坦で肥沃な地域は水田耕作に適し、古くから開け、古代における国政・文化の中心として発展してきた。今も県の中核的位置を占めていることは言をまたない。

なお奈良盆地と大阪平野を画して金剛山脈が南北に走り、標高1,125mの金剛山、葛城山、二上山、生駒山などの山々が約45kmに亘って連なっている。成因は断層作用によるが、二上火山群などを含み、室生火山群とともに持筆すべき地形区といえる。

南部山岳地帯……県総面積の60%強を占めるこの地区は、紀伊山地の主部にあたり、東部の大台ヶ原山（標高1,695m）を中心とする台高山脈、西部の伯母子山地、さらに中央部の新宮川、北山川の深い溪谷にはさまれて大峯山脈が連なる大山岳地帯である。中央構造線の外帯に属し、雄大な壮年期の地線は北部低地帯と対照的な地形といえる。

また河川は大河川のない北部低地帯に対し、吉野川北山川、新宮川などいずれも壮年期河川が深いV字溪谷をなして歪流し、山岳美と溪谷美に秀れている。こ

の地域は吉野・熊野国立公園の主要部をなし、林産資源とともに本県の重要な観光資源となっている。

## 気 候

本県の気候はその地形と同様 北部と南部でそれぞれの特徴をもっている。年次別にはあまり変化はなくもともと内陸県であるため寒暑の差が大きく、内陸性気候を呈しているが、南部山岳地帯では海洋の影響を強く受けた山岳気候を示している。北部地帯は一般に温暖寡雨で、平均気温は15℃前後、平均降水量も1,200～1,300mmである。ただし大和高原、宇陀山地など山岳地帯はやや気温は低く13℃前後、降水量は1,600～1,800mmとなっている。南部山岳地方のうち中部は山岳性気候で、平均気温も10℃前後と低く、反面降水量は全国的にも屈指の多雨地帯となっている。

中でも大台ヶ原一帯は年間5,000mmに近い降水量がある。南部山岳地方の南部になるにしたがって次第に海洋の影響を強く受け、平均気温も北部低地帯にほぼ近く、雨量は2,000mmを越える温暖多雨地帯となっている。

## 人 口

本県の人口は昭和60年10月1日現在で実施された国勢調査(概数)によると1,304,965人で、第1回国勢調査(大正9年)の約2.3倍、わが奈良県が現在の行政区画

のもとに誕生した明治20年の約2.7倍に当たる。

開化の黎明がきわめて早かった本県の古代人口はそれを知る手がかりとして県内各地に遺された多数の文化遺跡によるほかない。

縄文時代の早期(約8,000年前)に始まる本県の古代遺跡は弥生時代を経て古墳時代に至って最盛期に入る。現在考古学的に知られている縄文時代の遺跡は規模も小さく、その人口集落は大きくないと考えられるが県全体で60～70ヶ所となっている。(縄文土器の出土地を含む)弥生式遺跡となると百ヶ所以上の竪穴式住居を有した唐古遺跡(田原本町)をはじめ橿原遺跡(橿原市)布留遺跡(天理市)など大規模な住居跡が奈良盆地の各所にみられ、さらに住居跡ともみられる土器の出土地は260ヶ所にも及んでいる。この遺跡群から推定できる盆地部人口は県外他地域と比べておそらく当時最高の人口密度を有していたであろうことは想像に難くない。大和朝廷成立の必然性を肯定させるに充分である。

飛鳥時代の和朝廷成立は名実ともに大和をわが国の政治、文化、経済の中心地たらしめた。明日香村に遺る宮跡、橿原市の藤原宮、そして平城宮に至る過程のなかで大和朝廷がなした発展はすなわち日本の発展そのものであったといえる。当然本県の人口も増加したことが想像される。平城宮を中心とする都の人口は

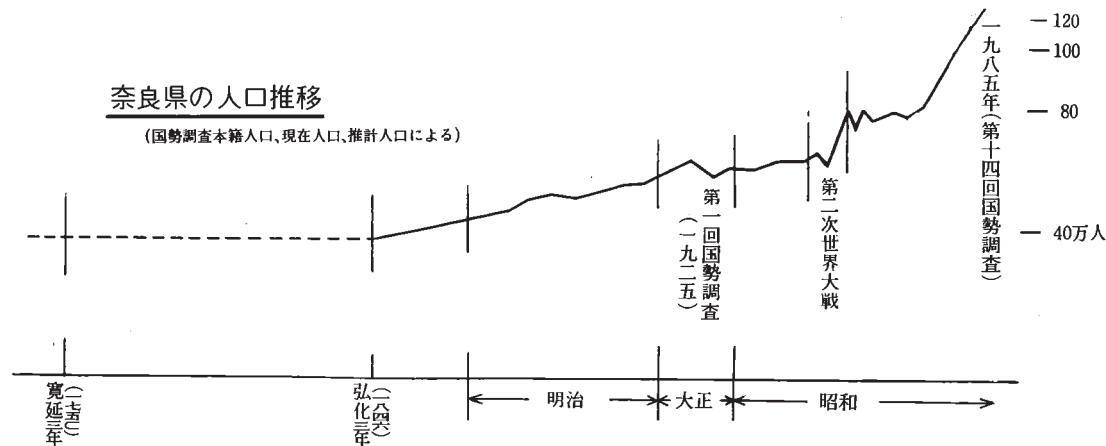
およそ17～19万人という推定がなされているが、この当時の朝貢を示す木簡の存在からおして固定人口のほかにかんがりの流動人口が都周辺に在住したとみられる。(現在の奈良市人口は当時を十数万こえており、新しい平城京造りが進んでいる。)また都城外の県内においても各所に所在する神社、仏閣、古代地名などは、いずれもそれを単位とした集落の存在を示すものであり、盆地部を中心とした人口密度の高さを想像させる。

近世に入って江戸時代の寛延3年(1750年)の人口資料として374,041人という記録がある。同じく弘化3年(1846年)には361,137人と社寺の衰微などもあって県の人口はわずかに減少気味であったようである。幕末から明治維新にかけて、そのはげしい文明開化の波をうけて本県の人口も著しく動きはじめた。明治5年の記録では423,004人となっており弘化3年より26年間に6万余人の増となっている。

さらに第1回国勢調査の行なわれた大正9年(1925年)には、564,607人を数えるに至った。明治5年より約半世紀の間に33.5%の増加率を示したのである。本県の場合昭和35年以降にみられる著しい人口の増加が県勢の伸展と正比例した形となっているのは本県の歴史が、新しい飛躍的發展段階へと突入したことを示している。昭和40年以降の人口推移はさらに一層顕著で

## 奈良県の人口推移

(国勢調査本籍人口、現在人口、推計人口による)



ある。昭和60年10月1日現在の国勢調査(概数)では1,304,965人となって55年に対する増加率は7.9%、昭和50年から55年にかけてみられた増加率12.2%を4.3ポイント下回ったものの、全国で第3位の増加率を示した。

(千葉、神奈川、奈良)

こうした急激な人口増加は昭和38年に始まった一連の総合開発計画による、産業、資源開発、さらに都市圏の膨張と、県の環境とが必然的に惹起した住宅開発等社会的要因が大きな要素となっている。例えば人口

の県際間移動(転入、転出)をみると昭和37年までは転出超過であったが、38年以降転入超過に転じ、以後、毎年転入超過となっている。

昭和59年の全国転入率は2.62%、転出率は2.62%となっているが、

本県においては転入率3.52%、転出率2.78%となり、転入率の方が高く、特に転入率では前年と同様東京都、千葉県、神奈川県、奈良県の順で第4位となっている。

また、転入超過県における超過率は0.74%で、全国第1位となっている。

このように本県における転入による人口の社会増はきわめて高く、59年では9,535人、自然増加では7,649人となっている。

### 【産業】

奈良盆地を中心として早くから農耕文化が発達し、さらに吉野、宇陀地方の豊富な林産資源にもとづく林業の発達の結果、本県の産業は永らく農業、林業中心の産業構造を示していた。すなわち気候風土に恵まれた本県農業は水田二毛作を中心として農業的先進地域として早くから完成され、これがかえって工業化の隘路ともなって2次、3次産業の発展を防げてきた。奈良時代に始まるといわれる墨、蚊帳、茶筌などの伝統工業がその高度な技術水準により栄えはしたが、それはあくまで家内工業的性格が強く、これが近代に至って県の工業化を推進する原動力となるには至っていない。

本県の本格的な工業化は明治30年代の綿糸紡績とメリヤス工業に始まると考えられる。しかし、それはまだ強固な農林業基盤のうえにたった工業化で、このため農業依存から完全な脱皮が遅れ、かえって工業基盤は零細で大工場の発展を妨げ工業化を遅らせる一因となってきた。とにかく本格的な工業化は繊維工業に始まり、漸次ゴム履物、木材製品等の軽工業を中心に発達した。しかしいずれも先に述べたように農林業基盤

に依存した工業化というきわめて特殊な事情から脱却するのが遅く、しかも港湾、河川に恵まれない立地条件の制約もあって軽工業中心のそれも工業基盤の弱い下請小企業が中心であったため農林業県としての位置は第2次大戦後まで持ちこされることとなった。

かつて本県の経済は、農林業を基盤においていたが、昭和30年後半に急速に進行した工業化、都市化により、農地の宅地・工場化、農業人口の他産業の流出、山間部の過疎化による林業従事人口の減少等がおこっている。また、内陸型工業の育成を目ざし公害のない工場の誘致等による第2次産業、第3次産業の進出により、本県産業構造は急激に変化してきた。

昭和55年国勢調査により本県の産業別就業者数をみると表1のとおり15才以上の就業者517,780人のうち製造業が26.0%を占めて、もっとも多く、ついで卸・小売業が22.2%、農業就業者は7.3%で第5位となっている。

これに対し昭和15年は46.0%と全産業中圧倒的に農業従事者が多く、ついで製造業21.2%がこれについていた。また、大正9年では農業従事者は全就業者の半分を上回る52.8%であった。

大正9年を基礎として産業別に昭和55年就業者数の増加率をみると全就業者数の増加率が142.6%に対し、農業は66.4%の大巾減少、逆に製造業は200.4%と実



に3倍以上の増加率となっている。このような農業就業者数の減少と逆に製造業および第3次産業関係の就業者数の増加は、昭和30年以後になって特に著しく、それだけ本県産業構造の急激な変化を物語っているといえよう。因みに、県内総生産から産業構造をみると、第1次産業は50年には7.5%のウェイトを占めていたが55年には4.3%、58年には3.4%と急速に低下しているのに対し、第3次産業は50年では50.0%であったのが58年には55.1%と増加しており、産業構造の変化を示している。

(表1) 産業別就業者数の推移

産 業	昭和55年		昭和15年		大正9年	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
		%		%		%
農 業	37,890	7.3	115,286	46.0	112,604	52.8
林業・水産業	4,606	0.9	...	...	...	...
鉱 業	113	0.0	1,162	0.5	333	0.2
建設業	39,988	7.7	...	...	...	...
製造業	134,411	26.0	53,081	21.2	44,746	21.0
卸・小売業	114,815	22.2	39,976	16.0	27,576	12.9
サービス業	103,657	20.0	21,442	8.6	13,351	6.3
その他の産業	82,300	15.9	19,666	7.7	14,836	6.8
合 計	517,780	100.0	250,613	100.0	213,446	100.0

また本県の県内総生産を50年と58年の2時点で比較すると、県内総生産は2.1倍になっている。産業別で見ると最も著しい発展をとげたのは第3次産業で2.4倍つづいて第2次産業2.1倍と大きく増加し、第1次産業は1.0倍と不振が目立っている。業種別では、電気、ガス、水道の3.6倍を最高に、運輸・通信業2.9倍、不動産業2.8倍、水産業2.7倍、サービス業2.3倍、製造業2.2倍と続いている。

また、県民総支出と県内総支出の差額、すなわち県外からの純所得は1.4倍となっている。

### 【農 業】

本県農業は現在きわめて厳しい環境下におかれているが、農業生産の基盤である経営耕地面積は、都市化の影響により減少しているものなお農用地の造成などにより昭和60年では22,386haをようしている。

経営規模においても1ha以上の農家が除々にではあるが増加の傾向にあり、最近では3ha以上の農家の出現もみられる。

農家数については大都市近効という立地条件もあって兼業化が著しく進み、専業率は60年には9.8%になった。今後農業後継者の育成、確保が重要な課題である。

農業生産面ではもうかる農業の推進により野菜・果樹・花き・茶・畜産等需要の見込まれるものの伸展を

図っている。

特に施設園芸は、その生産性の高いことから急速な伸びを示し、イチゴの生産高においては全国でもトップ・グループにある。

農家経済面では農外所得への依存度が高いが、農家所得は順調に推移している。今後は食料の安定供給をすすめて豊かな明るい農村づくりを進めていかなばならない。また、流通面でも、県中央卸売市場の円滑な運営を通じて生鮮食料品の価格安定を図っている。

### 【林業】

本県の林業は県総面積の約78%を占める豊富な林野面積と膨大な蓄積量を背景に県の基幹産業としての地位を占めてきた。とくに吉野山間地域は気候条件にも恵まれ、さらに山林所有の大半が民有であったことが山林経営にも独創的な姿勢となって現われ、これがために本県林業は全国林業界でも有力な地位を占めたといえる。古くから行なわれた人工更新の結果、吉野杉で代表される良材の産出、1ha当り約150m<sup>3</sup>（民有林）と全国平均の約2倍の蓄積量など、その山林経営の足跡は全国的に高く評価されている。

また吉野地方や桜井方面に発達した製材工業はこうした林産資源の加工供給ルートとして現在も本県工業において大きな位置を占めている。

しかしながら最近山林労務者の他産業流出による人手不足が賃金の高騰をよび、それが素材原価にはねかえって国内材の価格が高騰し、加えて建築構造の変化による建築資材の多様化、安い外材の流入による市場圧迫など、きびしい環境におかれている。

### 【工業】

本県の工業は最近著しい進展をみせている。もともと農業基盤におかれ、資本的にも農業資本中心の単位的に小さな工業化がその内容であったが、戦後全国的な産業再編成が始まるとともに、本県においてもメリヤス産業等の軽工業を中心に発展を遂げ、製材業といった地場産業とともに工業化の中心をなした。しかし昭和38年に始まった県の新総合開発計画の推進は、さらに工業化の質をかえ、県外大資本の導入という今まで見られなかった形の工業化がすすんだ。したがって産業部門における構造変化も著しく、従来繊維、木材、ゴム製履物等が主流であった県の産業構造は後退し事業所規模の大きい一般機械、金属製品、電気機械器具等の、本県にとっては新しい分野の進出が目立ってきた。

### 【文化・観光】

文化と呼ぶかぎり本県における包芽はきわめて早かったといえる。縄文時代早期から古墳時代に至る先史時代のなかで、恵まれた本県の地理的位置

自然環境が同時代文化の成長に大きく寄与したことは論をまたない。無数といえる縄文・弥生式遺跡の質・規模、さらに広大な前方後円墳を中心とした、古墳群の存在はそれを確証づけるものである。そのため他地域にまして本県が、わが国において占めた文化的位置はきらびやかなものがあった。古墳時代の終わりからわが国における政治権力は本県に集中し、その結果、飛鳥、奈良時代に至る約 200年間にわたって文化の中枢部は本県が独占した。今に遺された社寺建造物、文化財そして多くの考古学遺跡を包含した歴史的風土はかつての隆栄を偲ばせるにあまりあるものである。

こうした文化遺産を強固な基盤として本県の文化は現在もきわめてユニークなものをもっている。古い文化遺産と新しい文化がきわめて自然に融合した歴史的な文化都市としての位置づけがそれである。勿論県政の推進もそこに重点がおかれている。豊富な文化遺産を包括した本県の歴史的風土は、近年の急激な社会開発のために破壊がすすんでいるがこの開発を破壊ではなく保存との調和のうえにたつてすすめることが何よりも望まれる。昭和42年に新しく古都保存法が制定され従来の風致地区の指定を一步すすめた強力な保存政策が打ち出されたが、こうした法律の外にある歴史的風土、文化遺産も本県にとっても、わが国にとってもき

わめて大切なものである。これらを保存し後世に伝えていくのはわれわれの重要な責務といえる。昭和44年に知事が提唱した「緑を守る運動」はこうした本県の持つ良さ、文化遺産、風土も含めてその良さを保持し、さらに明るく近代的な文化生活を実現するためのすべての政策を「緑」というシンボルによって凝縮したもので、この運動方針は毎年県の重要施策の中に取り入れられている。

県民の文化向上も県政の重要な施策としてとりあげられてきた。この結果、県文化会館、県立美術館、橿原公苑、県立民俗博物館、県立橿原考古学研究所付属博物館、県立図書館等が開設され、さらに中南和地区の文化活動の拠点となる橿原文化会館が建設された。

また、県内公園の整備等にも力が入れられており、史跡公園としての平城宮跡は新しい姿としてのこれからの史跡の保存と活用にひとつの方向を示している。

また青少年野外活動センターは健全な青少年の利用を待っており、こうした体育文化施設の充実が、今後県民の文化生活に大きく寄与することはまちがいない。古く新しい奈良県の文化の基礎がきずかれたのである。

本県の観光は、奈良盆地を中心とした史跡・古社寺等の文化財観光と南部地方の自然観光に大別される。奈良、明日香、斑鳩、当麻をはじめとする盆地各地

に古文化財や史跡の豊富な観光対象を持ち大和ならではの歴史的風土とともに盆地全体があたかも史跡公園といった景観を呈している。奈良を訪れる人は「奈良詣」「初瀬詣」などと称し、江戸時代頃から盛んであった。大和名所図絵などにはよくその様が描かれている。かつて本県の観光はこうした古社寺文化財を対象とした観光であったが、都市化によって緑が失われていく昨今、奈良の持つ歴史的風土はむしろ憩の場としての新しい観光分野に価値を持ちはじめている。

本県の観光は毎年およそ 3,900万人の訪客を迎えており、修学旅行生が主体である。一般観光客は古社寺めぐりが多く、そして大和ならではの味わえぬ緑と空間、そこに残された民族の遺産に生活のやすらぎを求める人も増えている。すなわち本県観光が他に誇り得た文化財観光に今ひとつ空間観光（緑と空気）の分野が加えられ、その要求に充分応え得る資格を、本県は持っているのである。

そういう意味で南部山岳の持つ観光的価値もまた大きいものがある。吉野山の桜と史跡、吉野熊野連山の雄大な自然景観は地理的に大都市から至便な位置にあるため、近時大きくクローズアップされている。

吉野山は千年以上の歴史を持つ桜と、義経や南朝にまつわる史跡、西行、芭蕉の文蹟など、歴史と文学の

香り高い観光地である。

さらにその奥地には大和アルプスと称される大峯山脈を中心に2,000m級の山々が連なり、山岳と溪谷美に富む一大山岳観光地が展開する。昭和36年、大台ヶ原山への自動車道が開通し登山が簡便となり、1,600mの山上は気軽に親しめるようになった。

観光が「物見遊山」の位置から人間性のかん養へうつり変わりつつある現代、観光奈良県は自ずとその価値を増していくのである。

# 県内公園面積・施設一覧

(61. 1. 1現在)

公園の種類	公園名	面積	公園の特長	施設概要
国立公園	吉野熊野	総面積 59,103 ha	近畿の屋根といわれる大台大峯の山岳景観、千古の原生林、渓谷等の大自然及び歴史と桜で有名な吉野山	大台ヶ原山…駐車場、休憩所、博物展示室、日出ヶ岳展望台、回遊歩道、給水施設、宿泊施設等 大峯山脈…歩道、山小屋(稲村ヶ岳、行者還岳、弥山、和佐又山、楊子ヶ宿、猿平) 洞川自然研究所、宿坊(山上ヶ岳、前鬼) 吉野山…駐車場、休憩所、便所、桜展示園、回遊路等、ピジターセンター、国民宿舎
	国立公園	県内 31,298		
国定公園	金剛生駒	総面積 15,624	奈良、大阪の府県境の両側を南北に連なり、金剛山、葛城山、二上山、屯鶴峯、信貴山、生駒山黒漆池等を包括する。	金剛山…休憩所、公衆便所、金剛葛城縦走歩道 葛城山…休憩所、公衆便所、国民宿舎、ロープウェイ、ピジターセンター 信貴山…展望休憩所、国民宿舎 生駒山…回遊歩道、国民宿舎、山上遊園地、信貴生駒ドライブウェイ、縦横縦走歩道
	国定公園	県内 4,879		
国定公園	高野竜神	総面積 19,213 県内 5,171	野迫川村の西部と十津川村の西北部県境を和歌山県にまたがり、奈良県側には伯母子岳、護摩壇山、立里荒神等が含まれる。	自動車道(高野山一護摩壇山一竜神)、公衆便所、休憩所
国定公園	大和青垣	5,742	わが国で最も古くできた道といわれる山の辺の道周辺地域と、春日山隣接地、三輪山、天神山、長谷寺境内、石上神宮境内、景行・崇神天皇陵、それに自然景勝地である柳生街道周辺地域等が含まれる。	東海自然歩道、休憩所、便所
国定公園	室生	総面積 26,308	初瀬・宇陀川の断層地を構成する貝ヶ平山、香酢山、顔井岳等の大和高原南部地域、火山群特有の地形である小太郎岩、鏡岳、兜岳、屏風岩等の室生火山群地域及び高見山地域が含まれる。室生山火群地域及び高見山地域は、スキの草原、ブナの天然林等有名。	東海自然歩道、休憩所、便所 国立曾爾少年自然の家
	赤目青山	県内 12,744		
県立自然公園	矢田自然公園	524	大和郡山市の西方に連なる丘陵で、都市近郊における貴重な自然緑地であり、松尾寺、金剛山寺、東明寺、霊山寺、桂ノ木大師等を含む	回遊歩道、駐車場、休憩所、便所、子どもの森、自然研 究路
県立自然公園	吉野川 津風呂 自然公園	2,462	吉野川流域の奇岩及び渓谷美に津風呂呂及び飛鳥・奈良時代の史跡	公園標識
県立自然公園	月ヶ瀬 神野山 自然公園	507	梅の名所月ヶ瀬と大和高原における秀麗な山としてまたツツジの名所として知られる神野山	遊歩道、公園標識、休憩所
県立都市公園	奈良公園	502	遠く8世紀以来の日本の自然と文化を累積した自然人文総合公園ともいえるべき世界的な公園である。	特別天然記念物春日山原始林、史跡橿塚、春日山周遊道 路、春日野水泳場、春日野運動場、春日野野球場、若草 山、レストハウス、駐車場等
県立都市公園	竜田公園	14	竜田川流域の紅葉、三室山の眺望と桜	休憩所、便所、橋梁
県立公園	吉野公園	19	省略(国立公園に包含される)	国立公園吉野山の項参照

資料：県観光課

主要山岳一覽表 (單位：海拔m)

山岳名	標高	所在地	山岳名	標高	所在地
若草山	342	奈良市	稻村ヶ岳	1,726	吉野郡天川村
高円山	432	〃	観音峰山	1,347	〃
高峯山	633	天理市福住 (奈良市境)	伯母子岳	1,344	吉野郡迫川村 (十津川村境)
耳成山	140	橿原市	釈迦ヶ岳	1,800	吉野郡十津川村 (下北山村境)
天香久山	152	〃	大日岳	1,593	〃
畝傍山	199	〃	地藏岳	1,250	〃
生駒山	642	生駒市 (大阪府境)	笠捨山	1,352	吉野郡十津川村 (下北山村境)
神野山	619	山辺郡山添村	孔雀岳	1,779	〃
俱留尊山	1,038	宇陀郡曾爾村 (三重県境)	玉置山	1,076	〃
三峰山	1,235	宇陀郡御杖村 (三重県境)	牛廻山	1,207	吉野郡十津川村 (和歌山県境)
高取山	584	高市郡高取町	鉾尖山	1,319	〃
二上山 (雌岳)	474	北葛城郡當麻町	日ノ出岳	1,695	吉野郡上北山村 (三重県境)
金剛山	1,125	御所市	八剣岳	1,915	吉野郡上北山村 (天川村境)
葛城山	960	〃	大普賢岳	1,780	〃
乘鞍岳	993	吉野郡西吉野村 (天川村境)	仏生ヶ岳	1,805	吉野郡上北山村 (十津川村境)
山上ヶ岳	1,719	吉野郡天川村	三津川 落山	1,654	吉野郡上北山村 (三重県境)
行者還岳	1,546	〃	高見山	1,249	吉野郡東吉野村 (三重県境)

主要ダム一覽表

名称	所在地	型式	堤頂 長	堤高	堤体積
津風呂ダム	吉野郡吉野町	重力式 コンクリートダム	240.0m	54.3m	222,300m <sup>3</sup>
大迫ダム	吉野郡川上村	アーチ式 コンクリートダム	222.3	70.5	158,000
猿谷ダム	吉野郡大塔村	重力式 コンクリートダム	170.0	74.0	174,000
風屋ダム	吉野郡十津川村	〃	329.5	101.0	587,619
二津野ダム	〃	アーチ式 コンクリートダム	210.6	76.0	120,000
坂本ダム	吉野郡上北山村	〃	256.3	103.0	173,780
池原ダム	吉野郡下北山村	〃	460.0	111.0	646,600
室生ダム	宇陀郡室生村	重力式 コンクリートダム	175.0	63.5	139,000
大滝ダム	吉野郡川上村	〃	345.0	100.0	780,000
南畑ダム	生駒郡三郷町	〃	83.0	28.0	12,600
天理ダム	天理市長滝町	〃	210.0	60.5	188,000
初瀬ダム	桜井市初瀬町	〃	210.0	51.0	135,000
須川ダム	奈良市須川町	アーチ式 コンクリートダム	107.0	31.5	12,300
旭ダム	吉野郡十津川村	〃	199.4	86.1	138,520
瀬戸ダム	〃	ロックフィルダム	346.0	110.5	382,000
九尾ダム	吉野郡天川村	重力式 コンクリートダム	98.2	26.5	12,077
川迫ダム	〃	〃	104.0	36.5	39,920

資料 県開発調整課・河川課

資料 国土地理院

# 主要河川一覽表

河川名	上流端	延長	河川名	上流端	延長
淀川水系(一級河川)		280,680m	米川	桜井市大字高家	8,835m
白砂川	奈良市横田町字下ナラ	14,700m	佐保川	奈良市中ノ川町	14,823m
打滝川(今川を含む)	〃 別所町	10,300m	秋篠川	〃 中山町字北椋谷	9,600m
布目川	天理市福住町	24,000m	岩井川	〃 鹿野園町	6,730m
名張川	オオクタ川の合流点	16,300m	能登川	〃 高畑町字市の井	3,500m
遅瀬川	山辺郡山添村大字切幡	11,800m	布留川	天理市莒原町	11,220m
笠間川	〃 都祁村大字吐山	14,400m	紀の川水系(一級河川)		331,960m
宇陀川(黒田川を含む)	宇陀郡大字陀町大字宮奥	26,160m	紀の川(吉野川を含む)	三公川の合流点	70,050m
室生川	〃 室生村大字田口元上田口	13,400m	丹生川	吉野郡黒滝村大字中戸	32,100m
青蓮寺川	タコラ川の合流点	16,850m	宗川	〃 西吉野村大字西日裏	12,000m
菅野川	ミナノ川の合流点	7,300m	紅葉川	〃 〃 大字唐戸	3,300m
大和川水系(一級河川)		571,268m	脇川	〃 黒滝村大字横尾	4,880m
大和川	桜井市大字小夫地先	42,371m	宇智川	五條市久留野町字木ノ川	8,380m
葛下川	北葛城郡當麻町大字南今市	14,740m	秋野川	吉野郡下市町大字立石	7,450m
信貴川	生駒郡三郷町大字勢野	2,000m	八鳥川	〃 大淀町大字檜垣本	2,400m
竜田川	生駒市俵口	13,239m	竜門川	〃 吉野町大字西谷	6,000m
東生駒川	生駒市小明	2,000m	津風呂川	宇陀郡大字陀町大字栗野	17,600m
富雄川	生駒市高山	21,614m	高見川	吉野郡東吉野村大字杉谷	22,300m
岡崎川	大和郡山市今国府町	5,500m	鷲家川	〃 〃 大字鷲家	9,800m
曾我川	御所市大字重阪	26,896m	新宮川水系(一級河川)		410,352m
高田川	北葛城郡新庄町大字南藤井	13,045m	新宮川(川追川、天川、十津川を含む)	吉野郡天川村大字北角	113,700m
葛城川	御所市大字鴨神	23,246m	北山川	〃 上北山村大字西原	50,540m
飛鳥川	高市郡明日香村大字栢森	22,296m	西の川	〃 下北山村大字池峯	12,900m

資料 県河川課

## 市郡別民有地土地面積（課税対象分）

（単位：1000㎡）

（各年1月1日現在）

市郡別	総面積	田	畑	宅地	池沼	山林	原野	雑種地			
								計	ゴルフ場	鉄軌道用地	その他
昭和58年	1,470,305	244,740	83,979	109,554	9,009	980,969	15,494	26,560	10,111	2,811	13,641
59	1,461,213	241,783	83,284	112,563	8,986	973,340	15,423	25,833	10,104	2,807	12,925
60	<b>1,459,849</b>	<b>239,702</b>	<b>82,939</b>	<b>114,071</b>	<b>9,148</b>	<b>969,941</b>	<b>16,355</b>	<b>27,676</b>	<b>9,849</b>	<b>3,011</b>	<b>14,814</b>
奈良市	133,278	28,289	7,322	24,426	4	64,798	1,396	7,043	3,850	335	2,838
大和高田市	11,760	5,716	753	4,975	1	71	18	227	—	117	109
大和郡山市	27,005	15,302	1,543	8,077	371	1,100	120	492	38	110	343
天理市	51,513	20,838	4,585	5,576	55	18,130	451	1,879	1,242	36	601
橿原市	26,104	13,446	2,058	8,618	10	900	23	1,048	34	316	698
桜井市	51,268	12,940	4,751	5,843	40	26,356	444	894	187	232	475
五條市	54,355	12,574	4,321	3,543	234	30,803	1,438	1,442	1,026	—	411
御所市	38,341	14,297	1,962	3,307	6	18,215	320	233	—	50	183
生駒市	30,823	8,945	965	7,226	102	11,683	311	1,591	124	189	1,278
添上郡	13,587	1,889	1,731	342	—	8,854	58	713	446	—	266
山辺郡	60,112	11,615	6,611	1,759	82	36,951	1,249	1,845	796	209	840
生駒郡	28,136	9,674	2,195	6,357	19	9,233	24	635	324	126	184
磯城郡	22,076	15,059	1,888	4,830	—	—	—	299	—	125	174
宇陀郡	203,223	24,236	11,743	4,980	475	156,346	2,649	2,794	1,655	320	819
高市郡	28,926	7,936	3,430	1,717	1	15,652	60	132	—	85	47
北葛城郡	62,343	25,636	4,182	14,880	103	13,838	293	3,415	7	485	2,924
吉野郡	616,983	11,312	22,901	7,615	7,643	557,012	7,502	2,994	120	256	2,618

資料 県地方課「固定資産概要調査」

(注) ラウンドのため内訳と合計は一致しないことがある。

御所市の原野に牧場が含まれている。



## 奈良市の気象

年 月 別	気 温 (平均) ℃			湿度%	降 水 量 mm		風	
	日平均	最 高	最 低	平 均	年 月 量	1 時間最大	速度平均 <sup>m/s</sup>	瞬間最大風速
昭和 56 年	13.9	19.5	9.1	73	1,169.0	31.0	1.4	20.2
57	14.3	19.9	9.6	75	1,610.0	32.5	1.4	23.8
58	14.6	20.0	9.9	74	1,438.0	37.5	1.5	24.1
<b>59</b>	<b>14.0</b>	<b>19.4</b>	<b>9.5</b>	<b>71</b>	<b>1,020.0</b>	<b>36.0</b>	<b>1.7</b>	<b>19.6</b>
1 月	1.6	6.1	-1.8	74	36.0	2.5	1.7	18.6
2	1.6	6.2	-2.3	69	54.0	5.0	2.0	17.2
3	4.4	9.7	-0.5	65	48.5	4.0	2.1	19.6
4	12.1	18.3	6.7	65	75.0	8.0	2.2	15.1
5	17.5	23.7	11.6	67	99.0	18.5	1.6	14.2
6	22.8	27.5	18.9	75	327.0	36.0	1.7	17.8
7	26.0	30.7	22.4	77	111.5	12.0	1.6	15.0
8	27.6	33.5	23.1	71	37.5	16.0	1.4	11.5
9	22.0	27.6	17.7	74	113.5	18.0	1.4	16.0
10	15.6	21.3	10.8	73	45.5	5.0	1.3	13.9
11	11.0	17.1	6.0	74	31.0	6.5	1.2	13.8
12	5.7	10.6	1.5	68	41.5	4.5	1.8	16.0

資料 奈良地方気象台

県内各地の気象 (昭和59年)

観測地点 気象項目	奈良	大宇陀	針	上北山	風屋	田原本	五條	曾爾
気温 年平均℃	14.0	11.9	10.8	11.9	12.6	—	13.7	—
最高気温℃	18.9	17.0	15.5	17.1	16.9	—	19.1	—
最低気温℃	9.7	7.2	6.2	7.9	9.1	—	9.0	—
降水量mm	1,019	1,059	1,089	1,924	1,492	943	1,138	1,206

資料 奈良地方気象台

奈良県で感じた主な地震 (昭和59年)

月日別	発震時分	震源地	震度
1月1日	18時04分	東海道はるか沖 北緯32.6度 東経 137.0度 深さ390km	2
1月14日	11時26分	三重県中部 34.7 136.2 40	2
2月11日	04時49分	奈良県南部 34.1 135.7 70	3
3月22日	16時27分	大阪府北部 34.9 135.5 15	1
4月23日	13時26分	大阪府北部 34.8 135.6 15	1
5月5日	02時12分	大阪府北部 34.9 135.6 15	3
5月30日	09時40分	兵庫県南西部 34.9 134.7 15	2
5月30日	09時51分	〃 35.0 134.7 20	1
5月30日	10時03分	〃 34.9 134.6 15	1
7月22日	09時45分	大阪府北部 34.9 135.5 0	1
9月14日	08時49分	長野県西部 35.8 137.5 0	3
9月14日	12時50分	〃 35.8 137.5 1	1
9月15日	07時15分	〃 35.8 137.5 0	1
11月24日	12時17分	滋賀、岐阜県境 35.5 136.4 15	1

資料 奈良地方気象台